

放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点

(Environmental Radioactivity Research Network Center)



現状と課題

福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散は、大気・陸域・海洋の環境および生物すべてに影響を及ぼす極めて深刻かつ長期的な問題である。人体影響については、広島・長崎・県立医大で拠点化済みであるが、環境影響については、**検証すべき事項の複雑さから、未だその全容把握には至っていない。**

拠点形成の必要性

様々な大学、学会、研究機関、省庁が原発事故後の環境影響や動態評価を行ってきたが、多岐にわたる分野間の連携は必ずしも緊密ではなく、今後のさらなる研究発展のためには、**多分野にわたる研究機関が有機的に連携したネットワーク拠点の構築が必要。我が国のアカデミアの窓口を構築するのは国際的な責務。**

拠点の目的

異なる研究者コミュニティを代表する6機関が共同し、放射能環境動態に関する先端的かつ融合的なネットワーク拠点を確立する。特に、環境中での放射性物質の拡散・輸送・沈着・移行過程の実態とメカニズムを解明するとともに、それに基づく放射性物質の移動と被ばく線量の将来予測を行い、成果を国際発信する。

拠点形成後の展開

本ネットワークを拠点として、放射能環境動態・影響評価に関する分野横断的な共同研究を国内外でより一層推進し、**研究者コミュニティを融合・拡大した世界最高峰の研究・教育拠点を創出する。**復興へ向けた課題解決のみならず、放射性物質をトレーサとした物質循環研究等の新たな研究分野創出への展開を目指す。

放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点

(Environmental Radioactivity Research Network Center)

